

常連さんの横顔

ふっかーさん(20代男性)

「本がある！ホーム感がある！

自分の表現&人との交流ができる」



「本がある！本が交流のツールになっている！そこが楽しい」

ふっかーさんが、まちライブラリーを初めて訪れたのは2019年12月。

「読書会でスタッフの金城さんにオープンすることを聞き、飲み会のついでに寄ってみた」
中へ入ると「オープン1カ月後で本も人も少なかったけど、これからどうなっていくのか、

自分も何かできることがあるのではと期待感があつたんです。
かなりハマった！」

生まれ育ったのは厚木市。就職で清瀬に1年半、4年前に狛江市へ。現在は新聞社の関連会社に勤務。

記憶にある最初の読書は4歳のとき。「保育園の入園式なのに隅っこで絵本を読んでいた、気が付いたら式は終わっていました」

その後は図書館の利用カードが何枚にもなるほど本好きに。

小6のときに、読書を奨励・後押ししてくれた先生に出会ったのも大きい。

ふっかーさんにとって読書・本とは…「没頭できるもの。新しい世界へ誘い、深く入り込ませてくれるもの」

趣味のサッカー観戦も、本と雑誌がキッカケで好きになった。湘南ベルマーレのサポーターになり、今も応援することを楽しんでいる。

2018年6月に読書会を初めて開いた。「外の世界の人と繋がりたい。仲間や場所としても新しい可能性が広がり、本の情報を得ることも多いです」。昨年、まちライブラリーで読書会を主催。

「本で囲まれた場所でやりたくて。ここで実現できた！」

図書館でやるのは初めてだったので、
企画書を書いたりスタッフさんと打ち合わせしたり、
新鮮な体験ができました」

「ブックカフェや図書館もいいけど、ここにはホーム感がある！」

そこが他とは違う。自宅からは少し離れているけれど、

今、関わっているのは、

自分の表現や他の人との交流ができるから」

選書アイデア、サポーター会議への参加、植本祭でのMCなど、今や南町田まちライブラリーにとって貴重な存在である。これからも独自の感性で“ふっかー旋風”を！

好きな作家&おすすめ本

読書熱が高まるキッカケとなった伊坂幸太郎。彼の作品は登場人物の掛け合いが面白い。

「陽気なギャングが地球を回す」「逆ソクラテス」。岸政彦の「断片的なものの社会学」